

<第2学年分科会 提案発表>

言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成し、共有する単元の構想と展開 — 「名前を見てちょうだい」の音読劇の実践を通して —

勝浦郡横瀬小学校教諭 新田 彩乃

1 はじめに

本学級の児童は、読書が好きで、本係が紹介した絵本に興味をもち、それを借りて熱心に読んでいる姿が見られる。4月教材では、言葉のつながりに気をつけて、声に出して読む活動をしてきた。しかし、大きな声ではっきりと音読することはできるものの、登場人物の気持ちや表情などを具体的にイメージしながら音読できるまでには至っていない。

そこで、物語に「住む」といわれる小学校2年生を、場面のうつりかわりに着目しながら人物の会話や行動について想像を広げ、声や動きで表現しながら、自分の考えを深めたり広げたりできるようにしたいと考え、本実践研究に取り組んだ。

2 研究の方向

- (1) 課題に向かって学び続ける意欲を育む工夫
- (2) 主体的に課題を見出す力を育むために、児童自ら問い(めあて)を考えるための手立ての工夫
- (3) 学習を振り返って次の学習や生活に生かそうとする力を育む工夫
- (4) 言語能力を育成するための工夫



3 研究の実際

- (1) 課題に向かって学び続ける意欲を育む工夫
 - ① 並行読書 ② 既習物語「風のゆうびん屋さん」の想起 ③ 1年生に向けての音読劇という動機付け
- (2) 主体的に課題を見出す力を育むために、児童自ら問い(めあて)を考えるための手立ての工夫
 - ① 変化があるところを見つけさせる ② 前の場面と次の場面の登場人物の言動などを比較する
- (3) 学習を振り返って次の学習や生活に生かそうとする力を育む工夫
 - ① 場面ごとのショート音読劇 ② 学習の記録(ふりかえりのワークシート)
- (4) 言語能力を育成するための工夫
 - ① 全校での実践: 縦割り班の高学年児童による読み聞かせ
全校朝会での児童のおすすめの本の紹介
 - ② 学級での実践: 音読, 読み聞かせ, コトバト, 辞書引き, 並行読書



4 おわりに

本実践研究を通して、児童は登場人物の気持ちや表情などを具体的にイメージしながら音読できるようになった。また、並行読書を行うことにより考えを広げたり深めたりする態度が生まれ、物語の世界を豊かに味わうことにもつながった。読み聞かせや本の紹介を行うことにより、児童たちが本に興味をもち休み時間に図書館に行き読書に親しむようにもなった。問いを考えるための手立てを教師が提示すると、授業の時間に考えたい問いを児童たちが自らつくることができるようになってきた。しかし、前の場面と次の場面を比較したり、登場人物のセリフや描写をもとに問いをつくったりすることに課題がみられた。

今後は教科横断的に、児童同士の問いかけによる学びの場や、自分の思いや考えを表現するための場の設定を工夫し、一つ一つの言葉を大切にしたい授業を実践していきたい。